

■開設年度		■開講部局	
2013		共通教育	
■科目名			
エネルギー環境教育論（入門）			
■英語科目名			
Energy and Environmental Education: Introduction Course			
■前後期	■開講区分	■科目形態	■単位数
前期	毎週	講義	2
■（25年度以降入学生）中分類		■（25年度以降入学生）小分類	
a. 実践・判断・精神力		6. 環境を学ぶ	
■（24年度以前入学生）大分類		■（24年度以前入学生）中分類	
教養科目		分野3	
■受講学部学科			
全学部			
■担当教員		■担当教員所属	
萩原豪		稲盛アカデミー	
■連絡先（TEL）		■連絡先（MAIL）	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
■オフィスアワー（授業時間外の対応）			
水曜日3時限目（ダブルブッキングを避けるため、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください。）			
■共同担当教員			
■メインキーワード		■サブキーワード	
社会問題への理解と実践		コミュニケーション能力の修得	
■授業概要（目的・内容・方法）			
〔背景〕近年、地球温暖化問題や、CO2（二酸化炭素）の排出を抑制しよう、という動きがあることはいろいろな場所で行われています。地球温暖化問題とCO2の関係について知っている人が多いと思いますが、これが私たちの何気ない日常生活やライフスタイルに大きく起因していることは、普段あまり意識していないと思います。石油に代表される資源やエネルギーを使うことによって、私たちの生活は成り立っていますが、このままでは地球は持続不可能になることは自明です。この状態を回避するべく、私たちは次世代のために「持続可能な社会」を構築していく必要があります。 〔目的および方法〕本講義では現代社会におけるエネルギー環境教育の重要性について、いわゆる石油や原子力などのエネルギー問題だけではなく、水資源や食資源などにも着目し、「持続可能な社会の構築」という視点から考えていきます。また、現在展開されているエネルギー環境教育やESD（持続可能な開発のための教育）が包含している国際理解教育や開発教育などの関連領域や、日本やアジアにおける具体的な実践例を取り上げます。身近なモノやコトを通じて「持続可能な社会」に対する知識・認識の共有化を行っていき、国際社会が模索している「持続可能な社会」の在り方について受講生と一緒に考えていきます。そのため、ワークショップ形式で受講生がお互いに考え学んでいくスタイルをとります。 〔内容〕本講義（入門）では日常生活で消費している資源・エネルギー（特に電力）について「気づく」ということに重点を置いていきます。何回かのグループワークを経た後、私たちの日常生活と地球温暖化の関係について着目し、第三者（鹿大生を想定）にどうやったら気づいてもらえるのか、行動をしてもらうことができるのか、という企画を立案してもらいます。この企画については、かごしま環境未来館で研究報告会を行い、発表をしてもらいます。			
■学習目標			
(1) 環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、資源・エネルギー問題を通じて環境問題を多角的な視点から考察していくことができるようになること。 (2) 自分の眼と耳と足で情報を採って作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。 (3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。			

(4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得。

■授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）

〔授業内容および方法〕第1回目の授業ではガイダンスを行い、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。授業で取り上げる作品は受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業はワークショップ形式で行います（講義とグループワークを組み合わせます）。

- ・ガイダンス
- ・環境教育とは何か、その背景と現状、近接領域
- ・ESD（持続可能な開発のための教育）の現状と課題
- ・資源・エネルギー問題の現状と課題
- ・環境教育施設見学会（場所未定）
- ・グループワーク
- ・プロジェクト研究実践報告会
- ・ふりかえり

〔授業時間外活動〕週末の時間を利用して正規の授業を行うことを計画しています。5月中旬：1泊2日の研修合宿（場所は志布志・鹿屋を予定）。7月中旬：プロジェクト研究実践報告会。時期未定：環境教育施設見学会。これらは木曜4時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業（ガイダンス）でお知らせします。

■授業外学習（予習・復習）

グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり、プロジェクトの実施および発表準備などの作業をする必要が出てきます。

■受講要件

本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。

■成績の評価基準

授業への参加度（授業態度やグループワークへの貢献度、企画運営への参画度など）：60%、課題等提出物（リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど）：40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。

〔注意〕次に該当する場合は評価対象外とします。(1)出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2)研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。

■教科書	■参考書
教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。 課題作成のために必要な参考資料は別に提示します。	参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。 (1) 阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える 持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社、2007年。 (2) 稲盛和夫著、鹿児島大学稲盛アカデミー編『稲盛和夫講義集』鹿児島大学稲盛アカデミー叢書1、2010年。 (3) 今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂、2005年。 (4) エネルギー環境教育研究会編『持続可能な社会のためのエネルギー環境教育－欧米の先進事例に学ぶ』国土社、2008年。 (5) 日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。 (6) 東京商工会議所編『環境社会検定（eco検定）公式テキスト（改訂2版）』日本能率協会マネジメントセンター、2010年。 (7) 降旗信一・高橋正弘編著『現代環境教育入門』筑波書房、2009年。
■その他	
〔学外研修および研修合宿について〕本講義では学外研修および研修合宿を行います。交通費・宿泊費・研修費などの費用は実費自己負担で、例年、学外研修は1,500円前後、研修合宿は12,000円前後となります（参加人数によって変動あり）。これらの参加には学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。 〔注意〕第1回目の授業でグループワークを中心とした講義の進め方、学外研修および研修合宿に関する説明を行います。履修希望者は、第1回目の授業に必ず出席してください。履修登録人数が多い場合は第1回目の授業時に抽選を行います。	